

Lead

All roads lead to the future リード



コミュニケーションペーパー
2013 Autumn 秋号
¥0 TAKE FREE



〈特集1〉
特別インタビュー
厚生労働事務次官
村木厚子さん
女性では史上2人目の事務次官に就任した高知大学卒業生の村木厚子さんに、現役学生がインタビューしました。

〈特集2〉
土佐の自然が持つチカラ
土佐の植物
秘めたる適応能力
土佐の昆虫
土着天敵で害虫防除
高知大学ニュース

高知大学で開催するイベントをご紹介します。

Event information 2013 Autumn 秋号

黒潮祭

11/2^土・11/3^日



朝倉キャンパス

テーマは「大活祭」

活き活きとした祭にしたいという意味を含め「活」と「祭」を使い、「大喝采」をもじったテーマにしました。沢山の模擬店やイベントを企画しています、是非お越し下さい！



時間 2日…10:00～19:30/3日…10:00～20:00
場所 高知大学朝倉キャンパス TEL.088-844-8150



物部キャンパス 一日公開 11/3^日

物部キャンパス

地域の特産物、農産物の販売や人気のトレーラー体験コーナーをはじめ、大学を身近に感じられる催しが一杯です。お問い合わせの上、是非お越し下さい。

時間 3日…9:00～15:00
場所 高知大学物部キャンパス TEL.088-864-5114

第4回 ホームカミングデー 11/9^土

各学部のイベントを3つのキャンパスで開催。今年は講師に奥村盛人氏を迎え、朝倉キャンパスで記念講演を開催します。

時間 14:00～14:20 記念式典/14:30～15:30 記念講演
16:00～17:00 懇談会
場所 朝倉キャンパス
講師 奥村 盛人氏 高知大学文学部卒、映画監督、脚本家、高知県観光特使
演題 「ドキュメンタリーとフィクションを歩く～記者と監督 表現への挑戦～」
照会先 高知大学総務部総務課 TEL.088-844-8640.8116



第53回 室戸貫歩開催! 11/30^土・12/1^日

一般の方もぜひ、ご参加下さい！

高知大学の最新情報を伝えたい
THE こうち ユニバーシティ CLUB
FM 高知 81.6MHz
毎週日曜日 放送中 9:30～9:55
高知大学の教育、研究、地域貢献等のホットな情報をお届けします。ぜひ、お聴き下さい。
高知大学のHPから過去放送分も視聴できます!
<http://kochiuniversity.seesaa.net/>
スポンサー企業 高知銀行/放送大学/弘文印刷/日本トリム

2013年度 定期公演のお知らせ

開催公演一覧

- | | |
|---------------------------------------|---|
| 11/10 ^日 | 高知大学吹奏楽団
第31回高知大学吹奏楽団定期演奏会
時間 開場16:30/開演17:00
場所 高知市文化プラザかるぼーと 大ホール |
| 11/16 ^土 | マンドリンクラブ
第54回高知大学マンドリンクラブ定期演奏会
時間 開場18:00/開演18:30
場所 県民文化ホール(オレンジ) |
| 11/19 ^火 11/24 ^日 | 第14回高知大学教育学部生涯教育課程芸術文化コース
2・3年生合同展覧会「芸文展」
時間 9:00～18:30(最終日のみ17:30まで)
場所 高知市文化プラザかるぼーと 市民ギャラリー7階 第2展示室 |
| 11/24 ^日 | 高知大学交響楽団
第54回高知大学交響楽団定期演奏会
時間 開場13:30/開演14:00
場所 高知市文化プラザかるぼーと 大ホール |
| 12/7 ^土 | 奇術部 Trick or Treat
第13回マジシャンズパーティー
時間 開場18:00/開演18:30
場所 県民文化ホール(グリーン) |
| 12/15 ^日 | 高知大学合唱団
第42回高知大学合唱団定期演奏会
時間 開演15:00
場所 高知市春野文化ホール ピアステージ |
| 12/21 ^土 | 高知大学演劇研究会
第42回高知大学演劇研究会定期公演
時間 開場17:30/開演18:00
場所 アートゾーン 藁工倉庫 蛸蔵 |

平成26年度入試案内

推薦入試I 出願期間 平成25年 11/1(金)～6(水) 推薦入試II 出願期間 平成25年 11/1(金)～6(水) 医 平成26年 1/21(火)～24(金) 農 教(科学技術以外)	AO入試II 出願期間 平成25年 12/11(水)～13(金) さきがけ(生命・環境) 平成26年 1/21(火)～24(金) さきがけ(グリーン) 教(科学技術) 一般入試(前期日程・後期日程) 出願期間 平成26年 1/27(月)～2/5(水)
---	---

■大学案内・選抜要項等の資料をパソコン・携帯電話からテレメール請求できます。
インターネットの場合(携帯電話・パソコン)
<http://telemail.jp> 携帯電話・パソコンとも共有アドレスです。(iモード・EZweb・Yahoo!ケータイ)

お問い合わせ先 皆様からのご意見・ご感想をお待ちしております。

国立大学法人
高知大学
Kochi University
広報戦略室
高知大学 検索
<http://www.kochi-u.ac.jp/>
TEL.088-844-8643 FAX.088-844-8033
〒780-8520 高知市曙町2-5-1 E-mail:kh13@kochi-u.ac.jp

メルマガやってます!
月2回(第2・4金曜日)高知大学からメールマガジンを配信しています。大学の「入試情報(重要!)」から「あれこれ(これは面白い)」まで高知大学づくりの情報をタイムリーに発信します。
登録はこちら
<http://daigaku.kj.jp/kochi-u>

平成25年7月、女性では史上2人目の事務次官に就任した高知大学卒業生の村木厚子さん（高知県出身）。大きく羽ばたいた大先輩に、現役学生がインタビューしました。

高知大学卒の事務次官 村木厚子さんに聞く



インタビューで訪問した
厚生労働省
(中央合同庁舎第5号館)



厚生労働事務次官
むらき あつこ
村木 厚子 さん
高知県出身。昭和53年3月、高知大学文理学部経済学科卒業後、厚生労働省(旧労働省)に入省。雇用均等・児童家庭局長・内閣府政策統括官・厚生労働省社会・援護局長などを歴任。平成25年7月に厚生労働事務次官に就任。

聞き手
高知大学農学部4年生
おおき しほ
大木 志保 さん
熊本県出身。大学で地域と関わる活動を積極的に行い現場で学ぶ大切さを実感。地元熊本の公務員に就職内定した。

現場の声を翻訳するのが国家公務員の仕事

——今日は貴重なお時間をいただき、ありがとうございます。まず最初に、いまの仕事の内容を教えてください。

■村木 厚生労働省の事務次官を務めています。事務次官とは各省庁で官僚が就くトップの役職で、その上には政治家の方がいらっしゃいます。厚生労働省は医療や労働、介護、年金、保育などを幅広く扱い、国の予算の半分ほどに相当する約30兆円の予算を使う大きな省庁です。税金や社会保険料を納める「支える側」と、高齢者や障害者、子どものような「支

えられる側」の両方をサポートする役所で、とても大変ですが、非常におもしろい仕事ができます。——村木さんが仕事で心がけていることは何でしょうか？

■村木 私の就職が決まった時、高知大学のゼミの先生が「国家公務員というのは翻訳する仕事だ」とおっしゃいました。国民のニーズを法律や制度に翻訳するという意味です。すごく大事な言葉をもらったな、といまも思っています。この言葉と関連しますが、現場で頑張っている人の話を聞く機会を大切にしています。それは私たちの仕事の根っこの部分が現場にあるからです。——現場で見聞きたことは、仕事でどう役立つのでしょうか？

■村木 例えば、すごく優秀な農家は、自分の知恵や経験などを使って、優れた作物を作ることができます。しかし、他の農家も同じようにできるかといえば、みんなができるわけではありません。そこで、農業の現場に向き、優秀な農家の意見などを吸い上げて制度にすると、みんなに普及することがあります。

一方、制度を作ると、そこから漏れるものが出てきます。あるいは制度自体が硬直化することもあるでしょう。そうした時、また現場に戻って声を聞き、いまの制度に足りないものはないか、制度自体が古くなっていないか……といったことを確かめると、制度を正しい方向に導くことができます。

完璧は目指さず、樂觀的にやるのが大事

——これまでの仕事のなかで、どういったことにやりがいを感じられましたか？

■村木 女性労働や障害者関係の仕事ですね。女性労働については、男女雇用機会均等法を作る前から、女性には管理職に向かないとか、営業職は無理とかいわれてきました。しかし、女性もそうした力を持っているはずだし、存

分に発揮できるようにしたいと頑張ってきました。自分自身が女性ということもあって、すごくやりがいがありましたね。

——力を発揮できにくいという点では、障害のある人も同じですね。

■村木 障害があると働けないと思われがちですが、実はいろいろなことができるんです。「できない」と周りが決めつけず、どうやったらできるようになるのかを考へることが大事。こういった本当はできる人たちが助けて育てる仕事に大きなやりがいを感じます。もちろん、それだけではなく、児童虐待や待機児童をなくす、経済的に困窮している人を支え

るといった、困っている人を助ける仕事もやりがいがあります。そういう意味では、どの仕事もおもしろいですね。

——仕事をしていると、辛く感じることもあるのではないかと思いますか？

■村木 私の場合、長時間労働の職場なので(笑)、体力的に厳しいところはありますね。外部との折衝がうまくいかないこともたくさんあります。子育てをしている時には、周りが一生懸命に働いているのに、自分だけ早く帰らなければならなかったです。苦しいなと思うことはこれまでに結構ありました。



〈特集1〉特別インタビュー 村木厚子さんに聞く

——私も地域の方とよく交流するのですが、高知の人はすごく温かく、二方通行ではない関わり方ができます。楽しくコミュニケーションできる土台が高知にはあると思います。

■村木 私の生まれ育った高知はいまも昔も相当な田舎だし、現在では高齢化も進んでいます。こうした地に高知大学があり、県外からも人がいっぱい来てくれる。そうした皆さんが地域に出て、人と関わるというのは高知県のすごい財産だと思います。皆さんの思い出にも残るし、ぜひ外の人とつながっていたきたいですね。

——大学生活の4年間がいまも活かされていると実感することはありますか？

■村木 先生や同じ学科の女の子と知り合って、人と人との関係ができたというのがひとつ。もう

ひとつはとても自由な時間を過ごせたということですね。高校は授業が多いし、ほかにやるべきことがたくさんある。社会に出て、自由な時間はすごく少ない。しかし、大学では時間がたっぷりあるんです。そのなかで自分の選んだ勉強をして、人との損得のないつき合いができる。いま考えると、すごく豊かな時間でした。高知大学のキャンパスを思い浮かべるとき、田舎の空気と陽の光を一緒に思い出します。あのすごく大切だった時間が、いまの自分につながっている気がします。

最終的な目標は「立派な市民」になること

——これから社会に出る学生にアドバイスをいただけないでしょうか？



写真上・右：村木さんが在学していた年代の高知大学の様子
写真下：現在の高知大学



——そんな時、村木さんはどのような姿勢で仕事と向き合っていますか？

■村木 30数年やってきて経験則で思うのは、できないことをやろうとして苦しむよりも、できることをちゃんと考えたほうがいい、ということだと思います。何ともならないと思うか、何とかなると思うかで、全然違う結果が出ます。先日、脳科学者の茂木健二郎さんの講演を聞いたのですが、「根拠の

ない自信が大事」という言葉に、これだ！と思いました。そういう気持ちを持って、楽観的にやることが大事かなと思います。

——何とかなる。そう思っ取組むと、心が楽になるような気がします。

■村木 私が自分に言い聞かせているのは、完璧を目指さないということなんです。仕事だけではなく、プライベートでもそう。育児も相当手抜きをしていて、子ども



たちに怒られることもあります（笑）。でも逆に言うとう、私が完璧でないから、夫や子どもたちの家事が上達したし、家族が「同志」という感じになったので、まあいいかなと思っています。頑張つて、頑張つて、体が疲れてしまうと心も疲れてしまいます。完璧を目指さずに、肩の力を少し抜きながらやるのが大事ですよ。

——仕事ができるようになったと、自分で実感できるようになたのはいつごろからでしょうか？

■村木 国家公務員の場合、最初の役職は係員です。での悪い係員だったのですが、何年か経つと係長に昇格します。それでしばらく経つと、いまならいい係員になれるのだけだな、と思いました。同じことを昇格のたびに思うんです。ある日、ハツと気づきました。あつ、私、進歩してるじゃないの。自分の仕事に自分の力が追いつき、私ってダメだな、と思わないで仕事と向き合えるようになっていました。そう気がついたのは、社会に出て10数年が経っていましたね。

いまも深い絆がある 学生時代の人間関係

——村木さんは高知大生のころ、どんな学生だったのですか？

■村木 私は子どものころから本

■村木 新しい仕事のチャンスがあれば、積極的に受けるのがいいと思います。自分が自分のことを一番よく知っているとは限らない。外から見ているほうが、案外よくわかることもあります。あれをやってみろ、こうしたらどうだ、と言われたことに自然体でチャレンジするうちに、違う自分が見えてくるものです。

——すごい言葉がたくさんいただきました、ありがとうございます。村木さん、今後の目標や夢はありますか？

■村木 事務次官というのは多

当に内気で、高校3年生になるまで、隣の席の子に「おはよう」も言えないような子でした。でも、高知大学に入学すると、80人いる経済学科で女の子はたったの5人。こんな環境のもとでは、人と話すのが苦手な私でも仲良くしてもらえます。5人ともまったくタイプが違うのですが、いろんなことをいつも一緒にやるので、すごく深いつながりができました。それから30年以上経つのには、いまだにこの5人はいかにあればすぐに集まります。

——すごいですね。大学時代のつながりがいまもあるんですか。

■村木 高知の思い出とともに、あとあとまでつき合うケースは結構多いんじゃないでしょうか。先生ともつながりは深いですよ。事務次官になった時、当時の先生から「おめでと



う」と葉書をいただき、本当にありがたいと思いました。人と人との関わりが深いというのは、小規模な大学である高知大学の良さですね。

——いまの高知大生や若者に、どういう学生になってほしいと思いますか？

■村木 勉強や遊びもいいと思いますが、この時期にリアルな体験をしてもらいたいですね。たとえば料理などの家事。暮らすための力を身につけておくと、「生の財産になる」と思います。それから、引つ込み思案だった私が言うのも何ですが、できるだけ地域に出て、いろいろな人と関わってほしい。そういう生身の体験はとても長く自分の中に残ります。ちょっと勇気を出してやると、すごく大きな財産になるのではないかなと思います。

まったくなくなつた時、私に何が残されているのか。考えてみると、まだ「市民」の仕事があるんです。いま仕事をきちんとやるのも大事。これから家族に恩返しをするのも大事。でも、一番最後まで大事にしなければならぬのは、立派な市民になることだと思います。私の最終的な目標はこれですね。

——私もあと半年、自由な時間が残っています。自分で選んだことを楽しみながら、全力で取り組みたいと思います。村木さん、今日は本当にありがとうございました。



あきらめない
働くあなたに贈る真実のメッセージ

村木厚子
あきらめない
働くあなたに贈る真実のメッセージ

インタビューを終えて 大木 志保

“働くこと”、“社会に出ること”について考える良い機会になりました。

女性として社会の中で逞しく生きている村木さんの姿に優しさと感じました。さらにインタビューを通して村木さんが書かれた本の中にもあるように“とにかく一生懸命やってみること”の大切さを学びました。私も卒業後はこのような気持ちで仕事に取り組んで行きたいと思います。

秘めたる 適応能力

目覚めよ、眠っている遺伝子。
環境に合わせて変化せよ。

ムラサキシキブ

高知の自然は特殊
まるで「缶詰」の
ような空間

生物の研究者にとって、高知県は極めて興味深い土地のようです。その大きな理由の1つが、南は太平洋に向かい、北は四国山地によって他県と切り離されている特殊性だといえます。

「生き物にとっては、かなり閉鎖的な環境で、いわば「缶詰」のような空間です。調べれば調べるほど新しい発見がありますね」と植物分類学や生態学を専門とする福田達哉^{（みづのちか）}教授は語ります。

調べれば調べるほど新しい発見があると、福田先生は高知の植物の研究に益々没頭しました。

**川が増水しても
流されないように
姿を変えた！**

福田先生が強く引きつけられた高知の植生。いったい、どのような特徴があるのでしょうか。

「特筆されるのは川沿いの植物ですね。雨が格別多いという独特の気候から、川が増水しても生き残れるように、通常よりも葉が細くなったり、根が深く伸びたり、背丈が低くなったりしています。採集して栽培しても、その特徴は変わらない。遺伝的に固定されているんです」

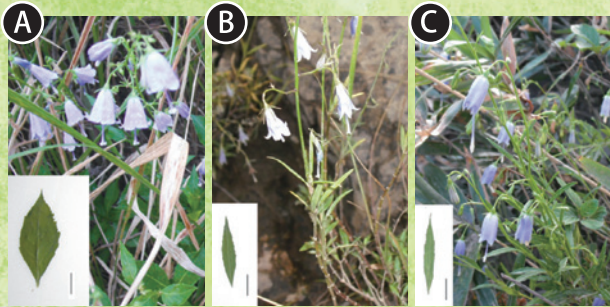


海洋植物調査実習

福田先生は7年前、高知大学に赴任。母方の田舎である愛媛の自然に、少年時代より親しんでいたことから、隣県高知の植生も理解しやすいだろうと考えたのです。

ところが！

「高知県内をフィールドワークして驚きました。図鑑に載っていない、非常に個性的な植物がたくさん見られるんです。想像していた植生と全く違う部分がありましたね」



研究室の学生がアメリカ植物科学雑誌(American Journal of Plant Science)に発表した論文より抜粋。
Aが通常型、Bが四万十川、Cが吉野川の川沿いで採取された溪流沿いの個体。溪流沿いの環境の違いによって葉が細くなっているのが、よくわかる。

なかでも独特の植生が多いのは、四万十川や吉野川沿い。一方、物部川や仁淀川沿いではあまり見られないのだとか。ダムができて増水しにくくなったのが原因ではないかと福田先生は考えています。光合成をするうえで、葉が細いのは効率的ではない。ダム建設後、葉の大きな通常の植物も川辺で生育できるようになり、生きる場を奪われてしまった。この考えを裏付けるのが、植物の遺伝子です。

「物部川や仁淀川沿いの植物の遺伝子を調べたら、増水時に対応する形状をしていたことを示す遺伝子的証拠が残っていたのです。つまり、ダム以前は、物部川や仁淀川沿いにも、そうした植物がたくさんあったと考えられます」

吉野川にも巨大なダムがありますが、支流の多さなどから、いまま増水の影響を受けるため、独特の植物が残っているのではないかと福田先生は考察します。

「植物の形を見れば、川がどういう歴史を歩んできたかもわかるんです。面白いですよ」と興味深そうに語ります。

**植物を中心に
広く生態系の
謎を解く！**

福田先生の研究は、植物の世界のみにとどまりません。豊後水道^{（ぶごすいどう）}に浮かぶ小さな島の鹿島では、植物とシカの関係をテーマに研究。島にはシカが50〜60頭生息しており、植物は食べられないように形を変えて生きているといいます。たとえばムラサキシキブという落葉低木。柔らかな先端をシカに食べられると、その近くから枝が伸び、それも食べられるとまた伸び……。この繰り返しで、竹ぼうきを逆さにしたような形になっているそうです。



山地植物調査実習

です。植物は形を変えて対抗することができると言えます」

鹿島にはこのムラサキシキブの他にも、葉をトゲトゲやギザギザにするなど、特徴的な形に変えている植物がいくつものこと。植物は意外に柔軟性のある生き物のようです。

「植物は通常、自分が持っている遺伝子のわずかな部分しか使っていないんです」



シチョウゲ
和歌山県と高知県の川沿いでしか見られない。四万十川にて撮影。



トサシモツケ
名前の通り高知県周辺でしか見られない植物。梶原川で撮影。



マツムシソウ
絶滅危惧に指定されている植物。高知県の鏡ダム近くの蛇紋岩地で撮影。

「シカ自体を見なくても、こうした植物があれば、シカが分布を広げてきたことがわかります。ただし、シカが増え過ぎたら、丸ごと食べてしまうので、こうした植物も見られなくなります。形を変えた植物は、シカと生態系との共生を示す指標になるのではないかと、研究を進めているところです」

植物を中心としつつ、生態系に関わる幅広い分野に及ぶ研究。指導を受ける学生たちの研究テーマもさまざまです。川辺の植物、シカと植物の関係、大学構内の外来植



総合科学系
生命環境医学部門
准教授
ふく だ かつ や
福田 達哉
東北大学理学部卒業。理学(博士)。専門は系統進化学、遺伝生態学、分子進化学、進化発生学。「形を変えられるのは、地球上に新しく生まれた植物。古くからいる植物は、対応できずにいじけちゃったりします(笑)」

「今後も、川辺の植物をはじめ、高知の環境を活かした研究をしたい。川に手が加えられることにより、どのように植物が姿を変えるのか。より深く研究することにより、一般論で語れるレベルまで持っていきたいですね」

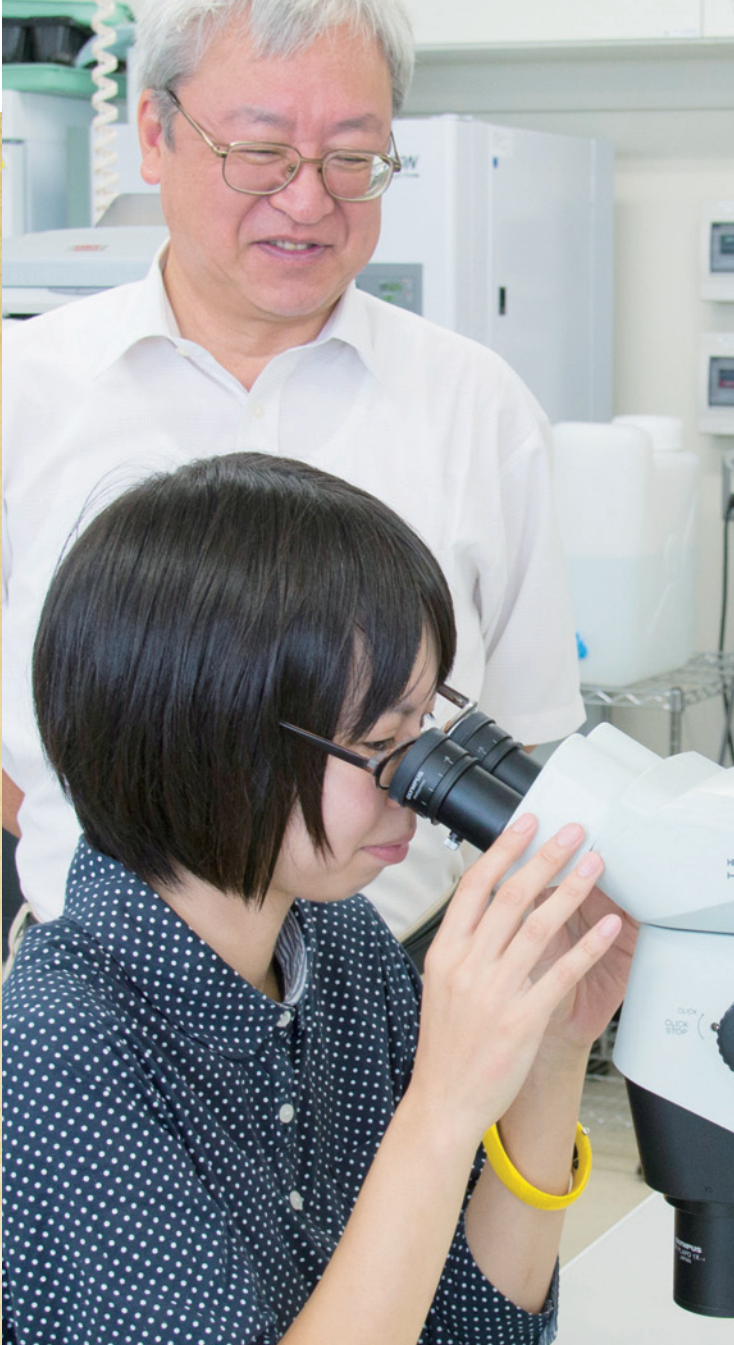
高知に赴任して7年目。高知ならではの個性ある生態系に、福田先生は、ますます魅力を感じています。

物、山に生息するミミズのカンタロウ、サワガニの体色変化など、多岐にわたります。

福田先生がいま取り組んでいる研究対象の1つが、ハウス内の害虫防除にも使われる小さな昆虫、クロヒョウタンカスミカメ。四国山地の北側と南側では個体群の遺伝子が異なっているそうで、そのことと植物との関連などを調べています。

土着天敵で害虫防除

高知に生息する虫を使った天敵農法で切り拓く、環境保全型農業の未来。



虫をもつて虫を制する！それが天敵昆虫

施設園芸が盛んに行われている高知県。近年は「天敵昆虫」を積極的に導入していることにより、全国的に注目されています。天敵昆虫とは、農作物の害虫を退治してくれる昆虫のことです。

「高知県で盛んに行われているのが、昔から地元で生息していた土着の天敵昆虫の利用です」と語るのは昆虫研究室の荒川良教授。高知大学では全国に先駆けて、土着の天敵昆虫の研究を進め、人と自然に優しい環境保全型農業をバックアップしています。

天敵昆虫による害虫防除は、欧米では古くから行われていました。日本の農業に導入されたのは平成7年。授粉用にセイヨウオオマルハナバチを放っているハウス農家が採り入れたそうです。

「ハウスにハチを放っていると、害虫が発生しても農薬をなかなか使えない。害虫と一緒にハチまで殺してしまいますから。そこで、天敵昆虫を使うわけです。一度放ったら、そのままハウスに住みついて、勝手に害虫を退治してくれるんですよ」

蒸し暑いハウス内で、マスクとゴーグルをつけて、汗だくになって農薬を撒く…。天敵昆虫を使うと、この重労働をしなくて済みます。

意外に多かったハウス内で活躍する土着の天敵

天敵昆虫は施設園芸の農作業に改革をもたらしました。しかし、時間の経過と共に、海外で問題になっている害虫が新たに侵入するようになりました。これらを防除するためには、さらに新たな天敵昆虫を外国から輸入することになり、農家の負担が大きくなります。「費用の問題に加えて、平成17年、セイヨウオオマルハナバチが特定外来生物※に指定されたことにより、外国の昆虫を日本にたくさん入れていいものか、という疑問の声が現場からあがるようになりました。」



演習林での昆虫観察実習

ました。こうしたなか、土着の天敵昆虫で防除しようという動きが高知県で出てきたんです」

高知大学は高知県農業技術センターなどとスクラムを組んで、土着天敵の利用に向けて研究を進めています。農家も協力し、貴重な情報を寄せてくれるようになりました。

「農家の人と呼ばれてハウス内を調べてみると、土着天敵がけっこう活躍していることがわかりました。セイヨウオオマルハナバチや天敵昆虫を使うことにより、農薬の使用量がぐっと減り、地域の虫が出入りしやすくなっていったんですね」

これは面白い研究対象に出会えた。荒川先生と学生たちは、高知大学だからこそできる土着天敵の研究に励みました。

高知大学の研究室が農業を変える！

土着天敵らしきものが発見されても、すぐに農業の現場で使えるわけではありません。生態を研究して、エサや産卵場所を解明し、繁殖させて一定量を確保する必要があります。

昆虫研究室で増殖に成功した「クロヒョウタンカスミカメ」の研究内容を例に紹介しましょう。

研究の発端は、研究室の大学院生による発見。大学のハウス内で、アリに似た虫が害虫のコナジラミを襲うところを観察したのです。農家の人に聞いてみたら、「そういえば、アリみたいな虫が多いハウスはコナジラミが少ないのう」という答えが返ってきました。

「これは使えるかも」と調べてみたら、まさに海外で天敵昆虫に



アザミウマを捕食中のクロヒョウタンカスミカメ成虫

利用されているカスミカメの仲間でした。これに近い種類の虫の飼育方法はわかっているのですが、真似たら増殖できるのではないかと考えました」

しかし、なかなか簡単にはいきません。当初はスジコナマダラメイガという蛾の卵をエサにしていたのですが、1グラム100円以上もする高価な品。もっと安いものはないかと試行錯誤し、熱帯魚用の安価なエサである小さな甲殻類、ブラインシュリンプの卵で代用できることがわかりました。



キノコバエを捕食中のメスグロハナレメイバエ成虫



コナカイガラを捕食中のニッポンクサカゲロウ幼虫

産卵場所には多肉植物のカラーコエを使っていたのですが、長持ちせず、頻繁に新しい物と交換する必要がありました。あれはどうだ、これも使ってみよう…と試した結果、サツマイモやジャガイモを飼育器に入れておいたら、一段と産卵するようになりました。

「研究室での増殖に成功後、高知大学と連携協定を結んでいる芸西村に研究拠点を作り、本格的な増殖に取り組んでいます。現在、週あたり最大7000頭を無償で配布しています。現場では毎週10アール当たり250頭放飼が基準です。芸西のピーマン栽培農家をほぼカバーできて、農家の人に喜ばれています」

土着天敵を活用している地域は、高知県だけといってもいいのでしょうか。その理由はどこにあるのでしょうか？



総合科学系
生命環境医学部門
教授

荒川 良

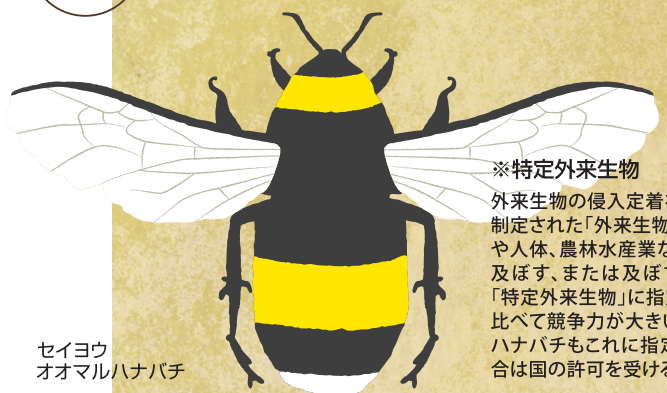
九州大学農学専攻修士。農学博士。専門は天敵昆虫学、昆虫生態学、衛生昆虫学。少年時代から「虫屋」で、いま虫と向き合っている。日々を過ごす。農家から連絡がくると、「ぼくはお尻が軽いから、ぐに飛んでいく」

「1つは、農業と自然が一体になった『農生態系』が豊かで、多様な生物が生息していることでしょうね。あとは県民性としていいことがあってみたい、という気持ちが強い。それと、天敵を入れてから、すぐに効果が出なくても気にしない。我慢強いというか、まあいいか、というか笑。効果が出るまでに時間がかかることがあるので、これはありがたいですね」

こうした熱心かつ大らかな人たちと今後も連携。研究対象はクロヒョウタンカスミカメの他にも、コナジラミを襲うメスグロハナレメイバエという小さなハエなど、他にもいろいろあるとのこと。日本の環境保全型農業の未来を拓くため、荒川先生と学生たちは研究を続けます。

土佐の昆虫
土佐の自然が持つチカラ

特集



セイヨウオオマルハナバチ

※特定外来生物

外来生物の侵入定着を防ぐことを目的に制定された「外来生物法」の中で、生態系や人体、農林水産業などに大きな被害を及ぼす、または及ぼす恐れのある種が「特定外来生物」に指定された。在来種と比べて競争力が大きいセイヨウオオマルハナバチもこれに指定され、利用する場合は国の許可を受ける必要がある。

高知大学二エース

行政と大学と地域の課題解決を目指して

地元自治体との連携のもとで、大学全体として地域を志向した教育・研究・社会貢献を進める文部科学省の大学COC事業に本学が採択されました。

今後は、文部科学省から5年間支援を受けながら、高知県と本学が官学一体となって、課題を組織的かつ機動的に解決する体制（高知大学インサイド・コミュニティ・システム・KICS）を構築し、域学連携教育研究を発展させていきます。

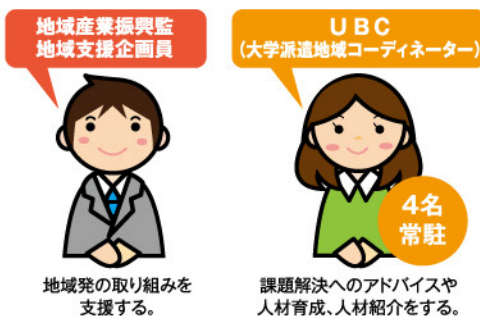
文部科学省実施 平成25年度「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」採択



▲記者会見の様子／左から受田副学長、脇口学長、深見理事（教育担当）

高知大学インサイド・コミュニティ・システム化事業

高知県が県内7ブロックに配置している地域産業振興監、地域支援企画員とUBCが連携し、地域課題解決の体制を構築する。



大規模災害時の迅速な対応の為に

中国・四国地区国立大学間連携 高等教育業務継続 計画に関する協定締結

5月30日に開催された平成25年度春季中国・四国地区国立大学長会議において、本学を含む中国・四国地区10国立大学（鳥取大学、島根大学、岡山大学、広島大学、山口大学、徳島大学、鳴門教育大学、香川大学、愛媛大学および高知大学）は「中国・四国地区の国立大学間連携による高等教育業務継続計画に関する協定書」を締結しました。

協定は、大規模災害が発生した際、被災大学に対し大学間が連携し、迅速かつ的確な支援を行うことにより、被災大学の業務継続の確保と早期復旧を図ることを目的としています。



▲協定書締結時の様子

四国5大学連携による 知のプラットフォーム 形成事業連携協定締結

入試、教育での 大学間連携を強める

5月13日、本学を含む四国5国立大学（徳島大学、鳴門教育大学、香川大学、愛媛大学、高知大学）による連携事業「四国5大学連携による知のプラットフォーム形成事業」の共同実施に関する協定調印式が愛媛大学で執り行われました。今後、AO入試の共同実施、大学教育におけるeラーニングの活用促進、産学官連携強化といった面で、大学の枠を越えて取り組んでいきます。



高知大学サッカー部 天皇杯2回戦 川崎フロンターレと激突

強豪チームに善戦！

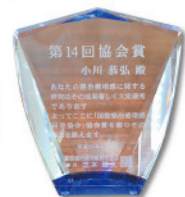
11年連続天皇杯出場となったサッカー部は、トーナメント1回戦、鹿屋体育大学を破り、2年ぶりの初戦突破を果たしました。2回戦はOBの實藤選手を擁する川崎フロンターレと対戦。強豪チームを相手に、持ち味の豊富な運動量を武器に最後まで白熱した試合を繰り広げました。試合は惜しくも敗れてしまいましたが、試合後、サポーターから惜しめない拍手と声援が送られました。



受賞者紹介

医学部臨床医学部門放射線医学講座 小川 恭弘教授 「第14回 国際癌治療増感研究協会」 国際癌治療増感研究協会賞受賞

小川恭弘教授の研究「新しい酵素標的・増感放射線療法KORTUCの開発とその臨床応用」が高く評価され、今回の受賞となりました。



総合研究センター防災部門 岡村 眞特任教授 「日本地質学会表彰」受賞

9月14日、「日本地質学会第120年学術大会」において岡村特任教授が日本地質学会表彰を受賞しました。岡村特任教授は、活断層および津波堆積物の試料採取システムを独自開発し、地震地質学を切り拓いてきたパイオニアで、研究成果を基に防災教育を熱心かつ長年に渡り実施した点などが高く評価されました。



医学部臨床医学部門内分泌代謝・腎臓内科学講座 井上 紘輔助教 日本腎臓学会ベストサイテーション賞受賞

「日本腎臓学会ベストサイテーション賞」は、日本腎臓学会雑誌「Clinical and Experimental Nephrology (CEN)」において創刊からこれまでに発表された論文の中で、平成24年に最も多く引用された原著論文1題のみに授与される大変名誉ある賞です。



医学部附属病院 診療科 外科(一) 並川 努講師 Best Poster Award受賞

6月19日～22日に、イタリアのパローナで開催された「10th International Gastric Cancer Congress(第10回国際胃癌学会議 IGCC 2013)」において、Best Poster Awardを受賞しました。



櫻井 克年理事(総務担当) 「第58回日本土壌肥科学会賞」受賞

9月12日に名古屋大学で開催された「日本土壌肥科学会2013年度名古屋大会」の中で授賞式および記念講演会が行われました。櫻井理事の研究テーマ「東・東南アジアの土壌生態環境および機能の評価と修復」の業績が高く評価されました。



医学部基礎医学部門生理学講座 梶 秀人教授 「第14回日本味と匂学会賞」受賞

9月6日、仙台で開催された「日本味と匂学会第47回大会」で授賞式および受賞講演が行われました。梶教授は、嗅覚特にフェロモンの記憶の研究の発展に貢献するとともに学会の運営と発展に貢献したことが高く評価されました。



第3回SUIJIセミナー 高知大会開催

農業発展で繋がる 日本とインドネシア



「大学は地域とどうかかわるのか」をテーマに、高知大会が8月29日開催され、6大学の教員、学生ら約200名が参加しました。

今夏は、学生が互いに両国の農山漁村の現場に入り、地域の人々と協働して課題を発見し、課題解決を行う「SUIJIサービス・ラーニング」が本格的に開始され、四国内5ヶ所で行われました。このプログラムは、大学のグローバル化の実践として期待され、平成24年から文部科学省の「大学の世界展開力強化事業」の支援対象となっています。シンポジウムでは研究者や学生のフォーラム、学長フォーラムなどが行われ、6大学が「サービス・ラーニングの覚書」とSUIJIの今後の行動計画を盛り込んだ「高知宣言」への署名を行い、SUIJIの将来の発展について方向性を示しました。



「SUIJI」とは
Six University Initiative Japan Indonesiaの略。インドネシアの3大学（ガジャマダ大学、ボゴール農業大学、ハサヌディン大学）と、四国の3大学（高知大学、愛媛大学、香川大学）で熱帯地域の農業発展に関する教育研究を進めるため、平成23年創設されました。

北京外国語大学と 学術交流協定を締結

中国と日本の 学生中心の交流に期待

多くの外交官を輩出する名門校である中国の北京外国語大学と高知大学は、大学間学術交流協定および学生交流覚書を締結し、7月12日、協定書および覚書の交換式を開催しました。

北京外国語大学で行われた協定書および覚書の交換式には、本学からは菊地国際地域連携担当副学長ほか1名が参加。式典では両大学が紹介され、金莉副学長、菊地副学長の両副学長から今後の交流の展望について述べられました。

学生を中心とした交流が開始され、両大学の学術交流が今後ますます活発になることが期待されます。



▲協定書および覚書交換式／左から菊地副学長、金莉副学長